

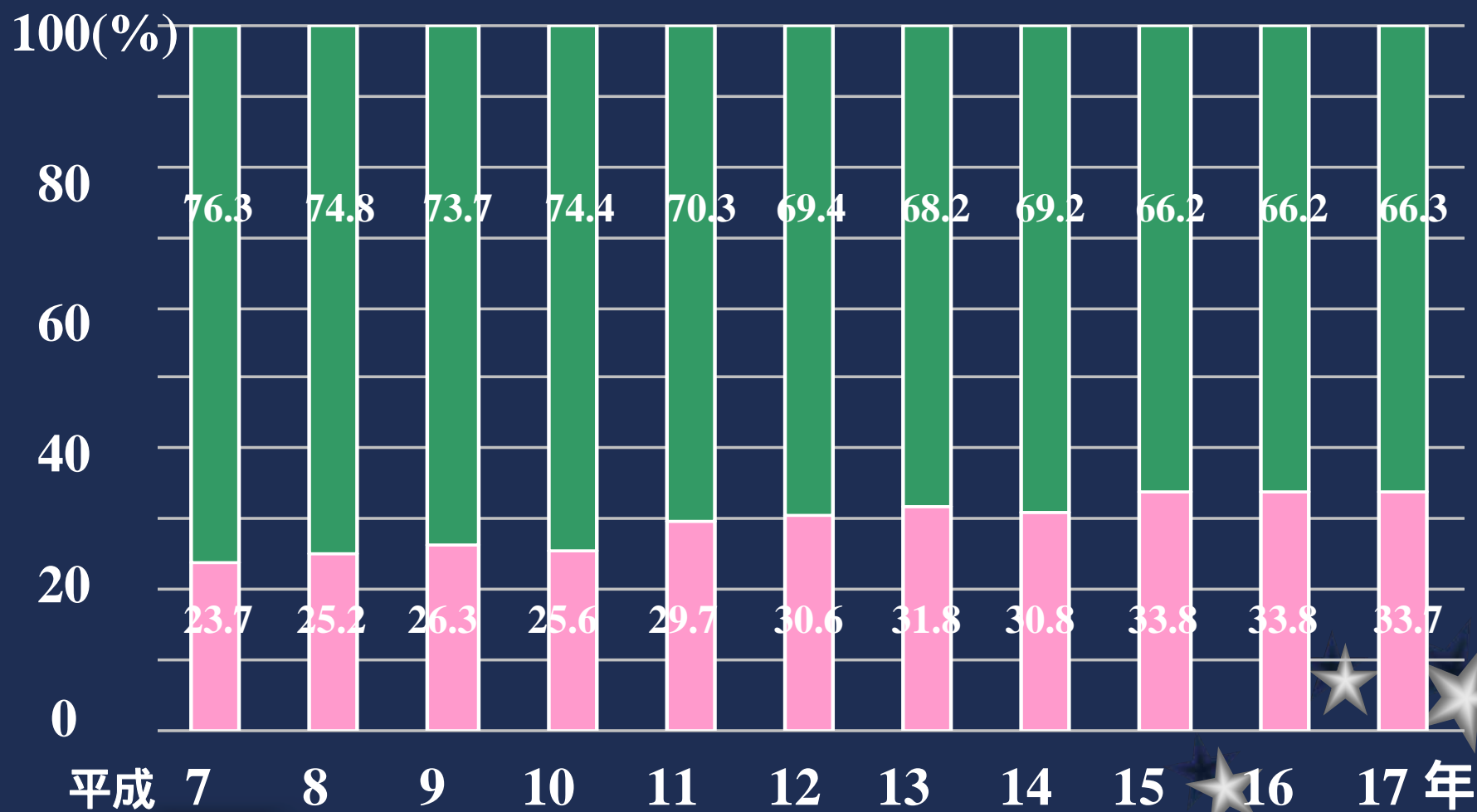
女子医学生と女性勤務医の現況

カレスアライアンス天使病院産婦人科
札幌医大産婦人科学講座臨床教授

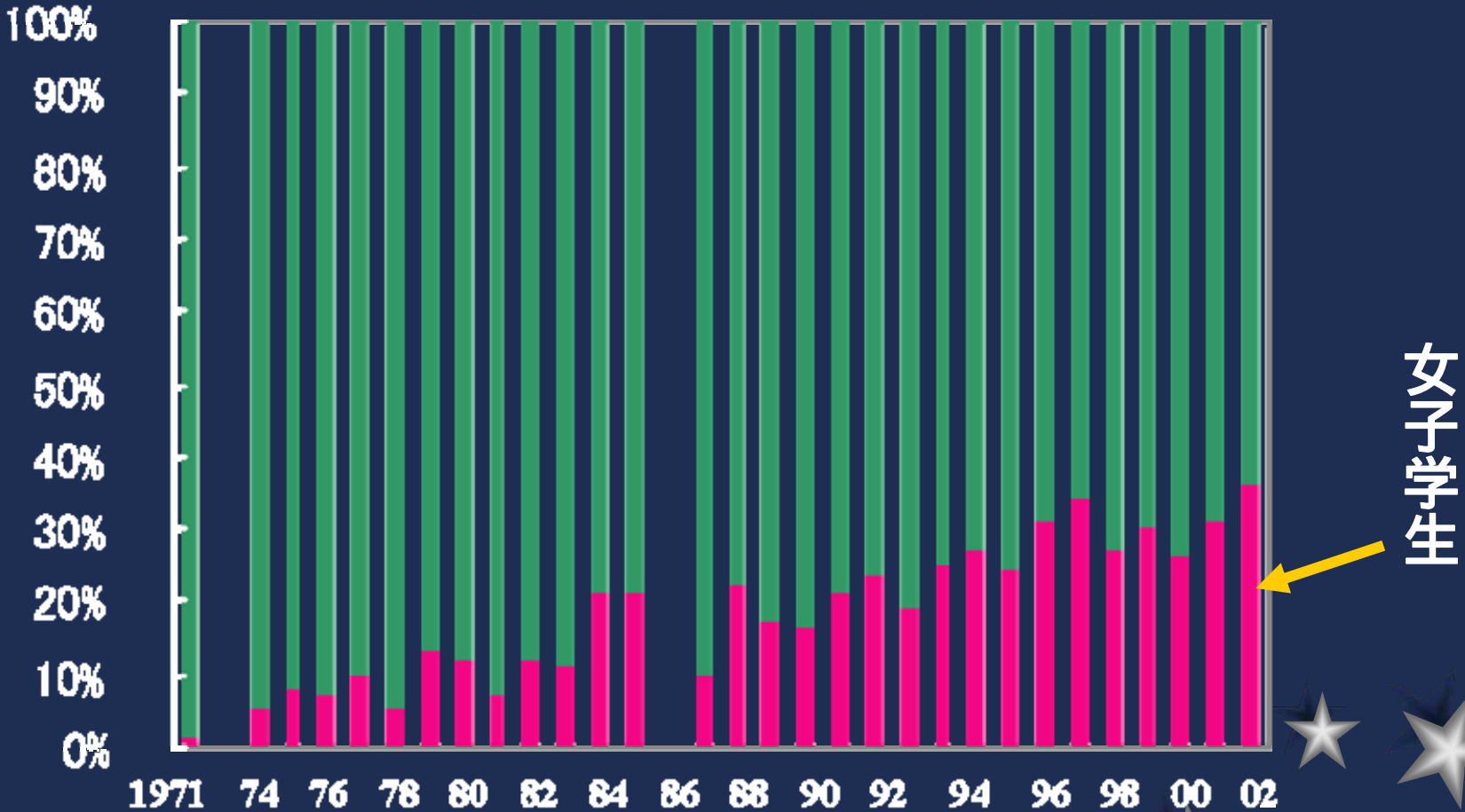
藤井 美穂



医師国家試験合格者の男女比



札幌医大医学部女子学生入学者数年次推移



女子学生



女子医学生・女性医師に対する調査背景 (平成10年・平成16年)

- 対象:** (1) 札幌医科大学医学部2年～6年生・回答221名(男子121名,女子90名)
(2) 150床以上の病院に勤務する卒後20年以内の北海道在住女性医師642名(回答201名)
(3) 病院管理者・教室長371名(回答176名)
計 588名

方法: 卒後年数

診療科目

出産の有無, 産休・育休取得の有無・育児援助者

勤務施設における配慮(当直・就業時間・被爆)

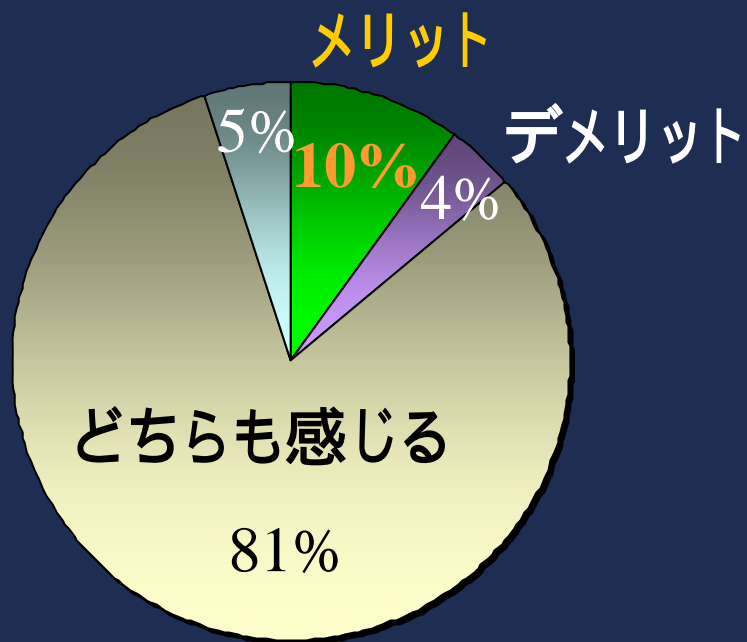
女性医師であることに対する意識調査

今後勤務する上で希望すること



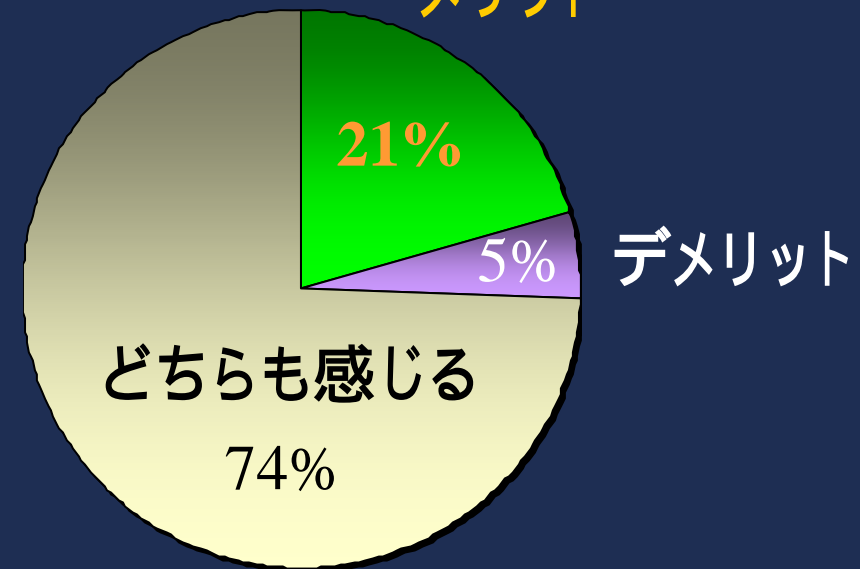
女医であることをどう考えるか？

どちらも感じない



平成10年度女性医師

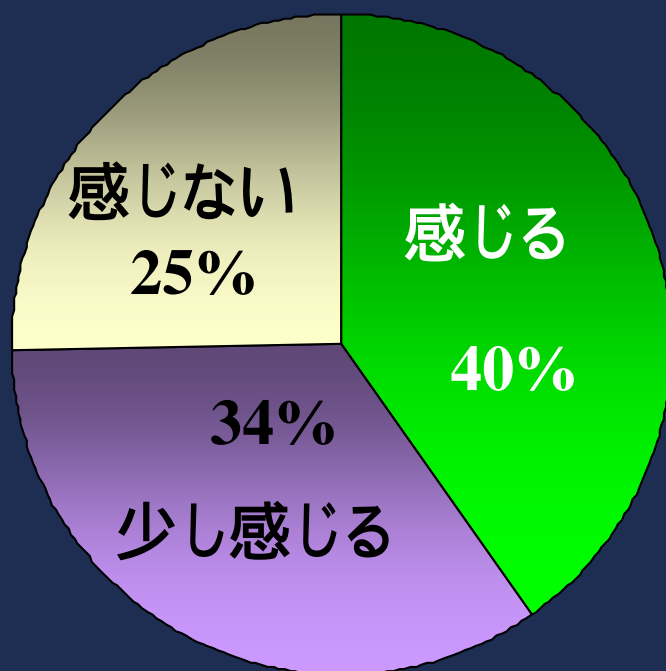
メリット



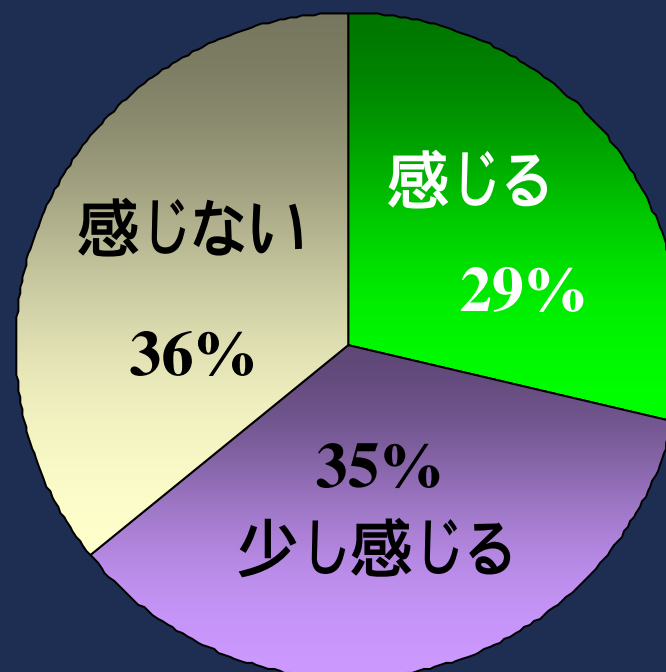
平成16年度女性医師



勤務にあたり男女差を感じるか？



平成10年度・女性医師

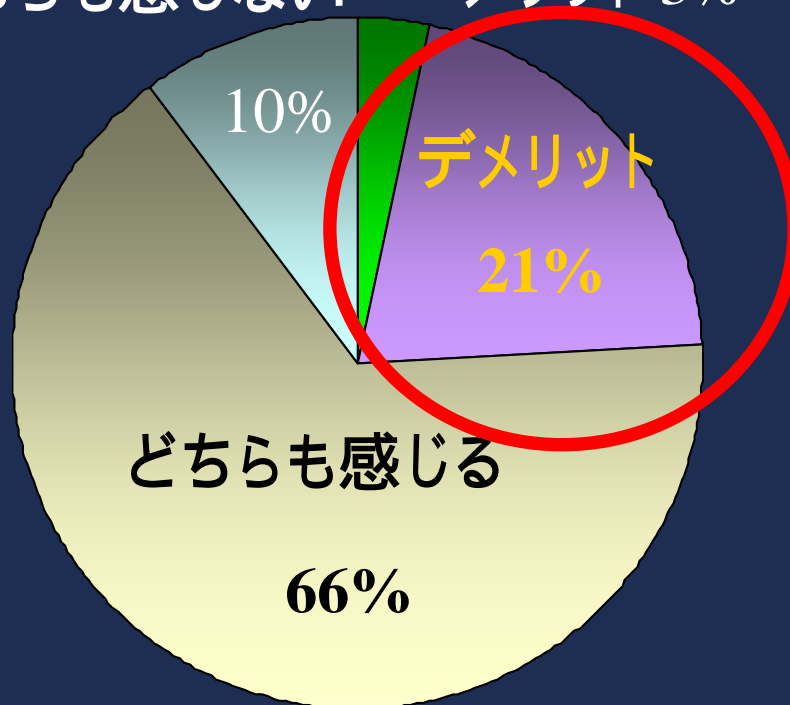


平成16年度・女性医師

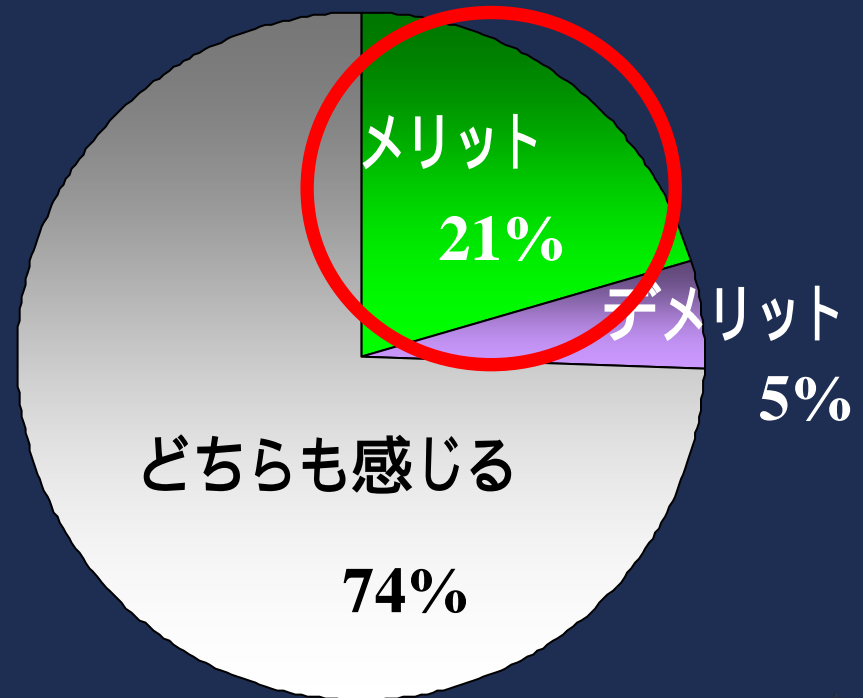


女医になることをどう考えるか？

どちらも感じない 10% メリット 3%



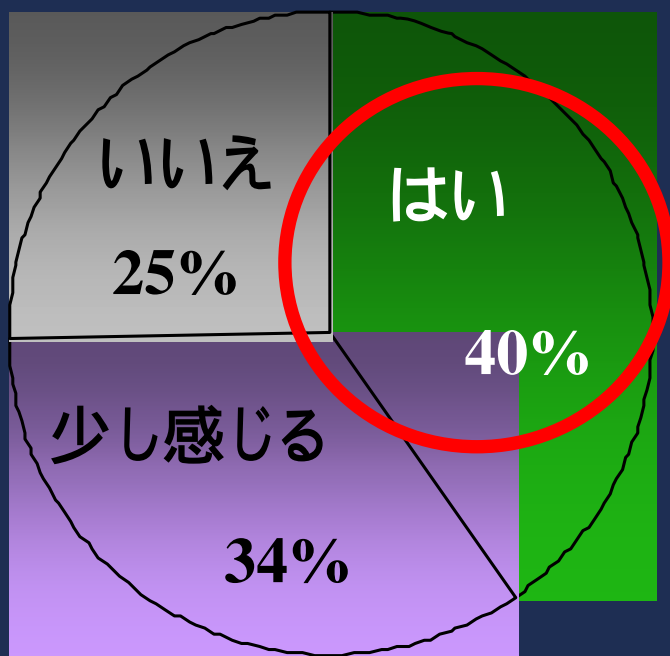
平成16年度・女子学生



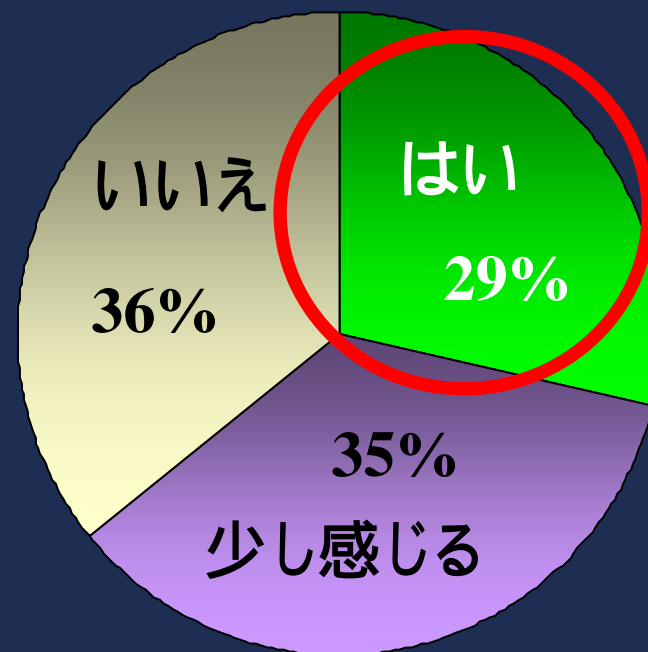
平成16年度・女性医師



勤務にあたり男女差を感じるか？



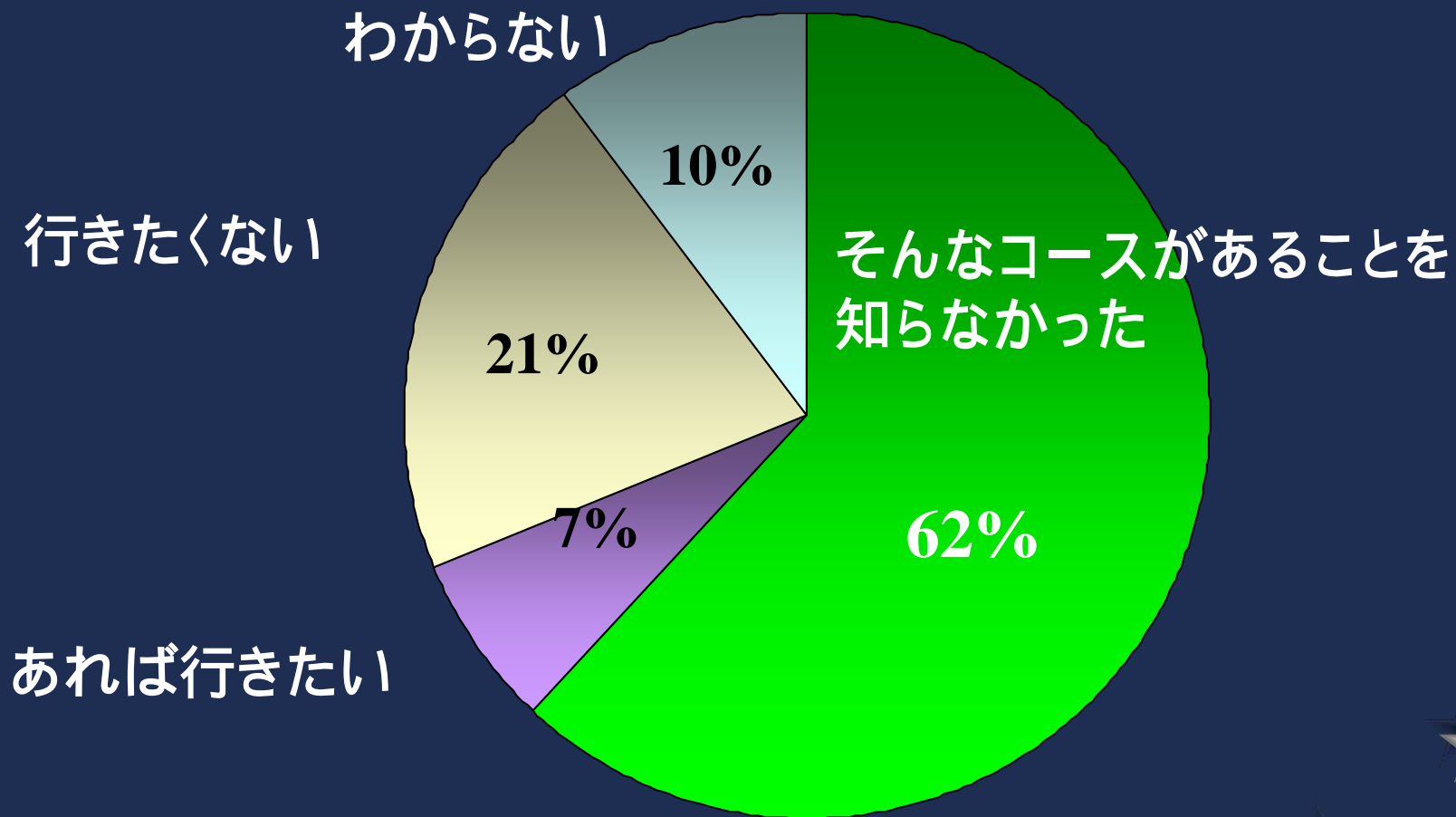
平成16年度・女子学生



平成16年度・女性医師



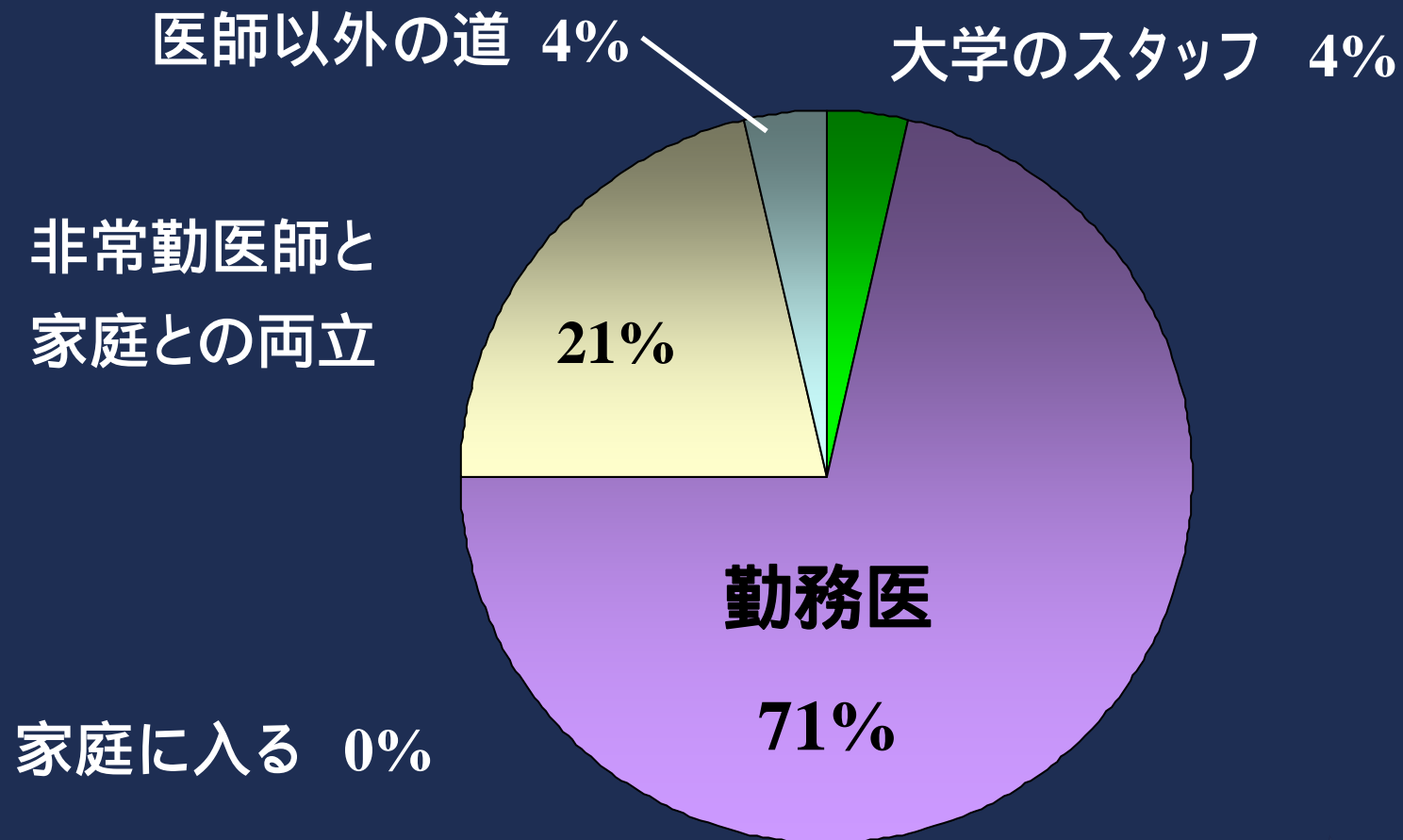
レディースコースをどう考えるか？



平成16年度・女子学生



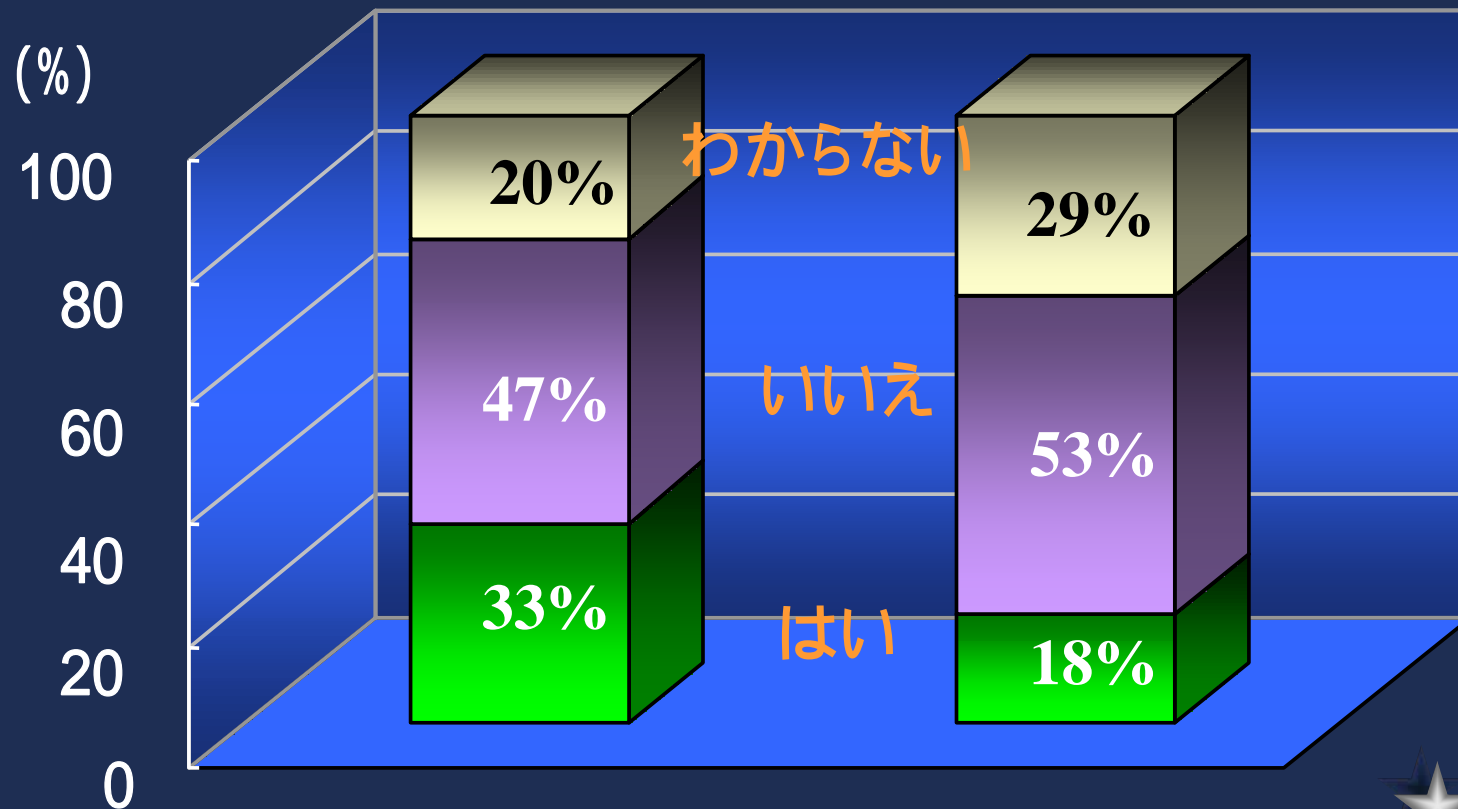
希望する将来の勤務形態？



平成16年度・女子学生



医師であることが結婚の妨げ？

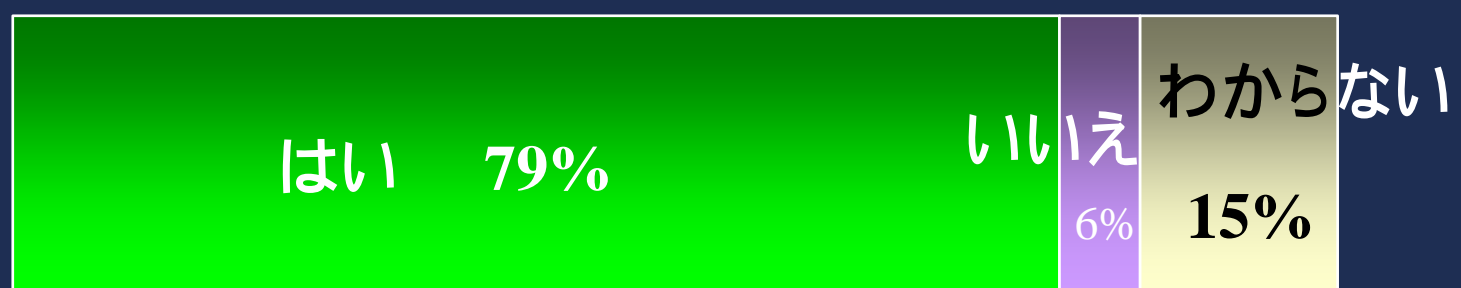


女性医師平成10年度と16年度の比較



結婚しても現在の仕事を続けますか？

平成10年度
女性医師

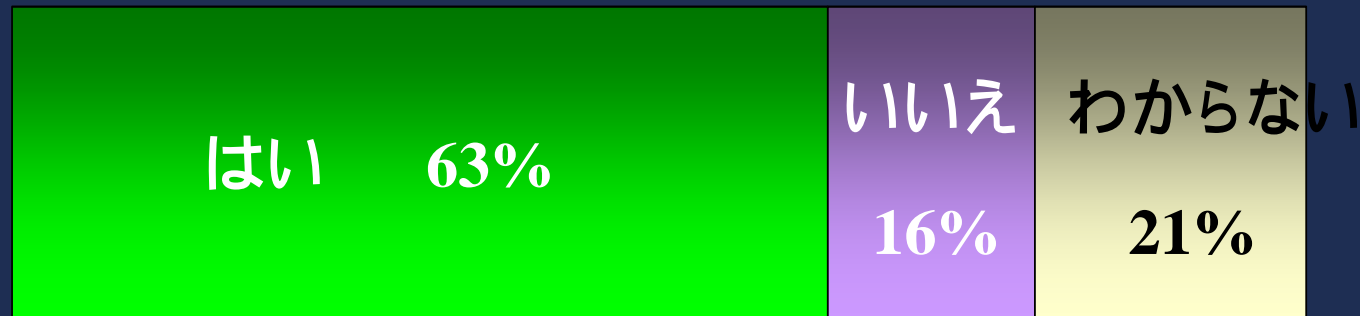


平成16年度
女性医師



夫は育児に協力していますか？

平成10年度
女性医師



平成16年度
女性医師



アンケート解析 1

- 1 平成16年度女性医師は勤務する上で、36%が男女差を感じておらず(平成10年度25%)、男女差を感じる29%(平成10年度40%)を上回っている。
- 2 平成16年度女性医師は女性医師であることは74%がメリット・デメリットのどちらも感じるが(平成10年度81%)21%がむしろメリットを感じている(平成10年度10%)。



アンケート解析 2

- 1 女子学生は女性であることが勤務の上でnegativeにはたらくと意識しているようである。

女性医師の36%が男女差を感じておらず、差を感じているものは29%であるのに反し、女子学生の40%が勤務する上で男女差を感じると危惧している。

- 2 女性医師の21%がメリットを感じており、デメリットと感じているのは5%であるが、女子学生の21%がデメリットと考えており、メリットと考えているものはわずか3%である。



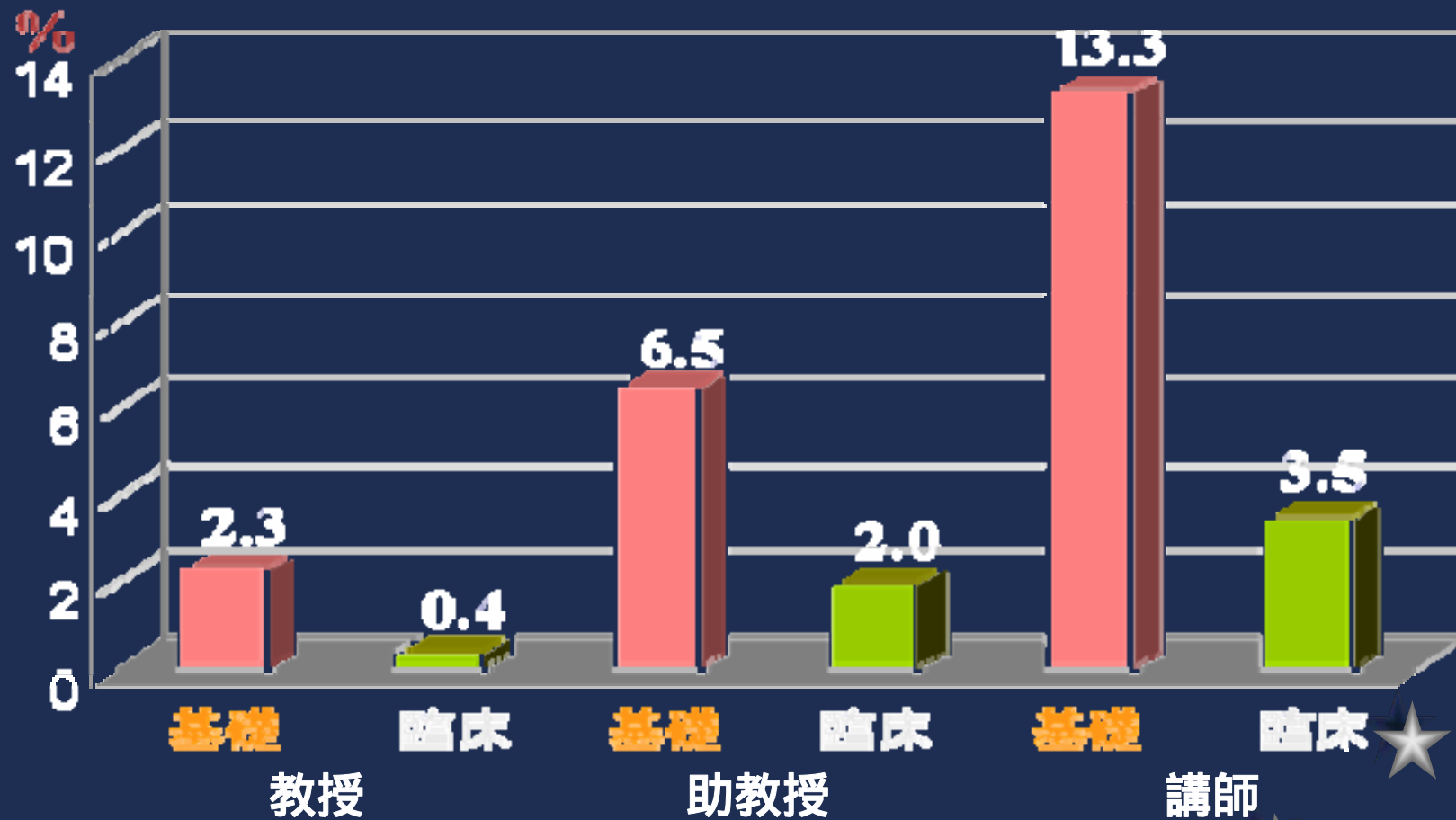
アンケート解析 3

女子学生の71%は勤務医として働きたいと考えており、21%が非常勤医師と家庭を両立したいと回答している。

7%はレディースコース(男性とは異なった勤務形態を選択できる)を選択したいが、21%が選択したくないと回答した。



国公立医学部女性教官数(比率)2002年現在



提言

1. 女子学生、若い女性医師に対する多様な女性医師像のモデルを提示すること。

社会全体として、医師を資源として認識しつつ、性別を超えてワークシェアできる体制を導入する

。

